

C-14 イメージ用語によるシルエットの分類化(2) — 色彩効果について —
大阪市大生活科学 ○上野清一郎 出口喜子

目的 前報において実験計画に基づく180種のシルエットを作成し、衣服をあらわす代表的イメージ用語5つによって、それぞれ被験者にシルエットの視覚イメージを答えてもらった結果をもとに、イメージが同一パターンに属するシルエットの分類を行なった。このときは色彩効果は考慮せず、もっぱら形態のみに限ったが、今回は引きつづきこの方法を用いてこれに色彩を加味し、これによってシルエットのイメージが形態のみのときと比べてどのように変化するかを追求し、併せて形態、色彩の相互効果の調査をも試みた。

方法 シルエットの形態および数は全く前回同様とし、つぎの要因、水準数となる。

A: ウエスト巾 2水準(A_1, A_2) C: すそ巾 5水準(C_1, C_2, C_3, C_4, C_5) $2 \times 3 \times 5 \times 6$
B: ヒップ巾 3水準(B_1, B_2, B_3) D: 服の丈 6水準($D_1, D_2, D_3, D_4, D_5, D_6$) = 180組合せ

今回はこれら180シルエットの各々につき、つぎの3種の色彩を施した。(a)赤: カーマイン5R 4.5/15, (b)青: セルリアンブルー10B 3.7/10, (c)黄土: イエローオーカー10YR 6.5/9, イメージ用語、評価尺度は前回どおりとし、被験者は新たに30名をえらんだ。これら被験者の答えたイメージ得度を基に、クラスター分析法によって解析し、以下の1, 2の結果を得た。

結果 (1) 5つのイメージ用語を通してクラスター分析法による総合2群分けを行ない、色彩のちがいによってイメージの異なる群と変らない群とに分け、これらを要因ごとに分離した。(2) 各イメージ用語別の群分けを行なったところ、シルエットのイメージが色彩によって大きく異なる用語と、変らない用語のあることが解った。